

第3学年 英語科学習指導案

日 時：平成20年9月9日（火）5校時

場 所：3年2組教室

学 級：3年2組（男子19名、女子16名、計35名）

授業者：教諭 菊池 克隆

1. 単元名 Unit4 An American *Rakugo-ka* (NEW HORIZON EnglishCourse 3)

2. 単元について

(1) 教材について

本教材は日本文化の事例として落語をトピックとしている。**Starting Out** では、落語を紹介する冊子で「扇子の使い方」を扱い、**Dialog** では、慎とカナダ人エレンが対話を通して、週末に英語落語に行くことになる。後半の**Reading for Communication** では英語落語（小話）を2ページにわたって読む。この小話は日米の文化の違い、特によくある言語表現の間違いをテーマにしており、飲食店の注文の仕方の日米の相違と、“Excuse me.” のつもりで“I’m sorry.” を使ってしまう日本人が取り上げられる。英語と日本語の意味を1対1で対応させることの問題点を意識させたい。なお、登場するビル・クラウリー氏は実在の落語家で、この小話も彼の創作である。

言語材料としては、**Starting Out** では〈疑問詞 + to 不定詞〉の表現を学ぶ。また、**Dialog** では、〈It ... for ~ to + 動詞の原形〉の文を学習する。身の回りの出来事について、自分や友達にとってはどうなのかなど、自己表現につなげやすい文型である。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、男女ともに明るい生徒が多く、発言も多い。どんな活動にも意欲的に取り組む生徒が多く、英語に限らずどの授業でも熱心な姿勢を見せている。4月に行ったNRTの結果を領域別に見ると、聞くこと100%、話すこと106%、読むこと104%、書くこと111%であった。また、昨年度の学習定着度状況調査の結果からは、「前後の文脈から対話文の一部を理解できる」の正答率が31%、「長文の一部を理解し、正しい内容を読みとることができる」が28%と落ち込んでいた。

「読むこと」に関して、日ごろの様子から長文の読解を苦手と感じる生徒が多かった。そのため昨年度の2学期から、「読むこと」の力を育むために題材ごとのリーディングポイントを工夫し、T.F、Q&Aを数多く行ってきた。特に疑問詞を使った英問には正確な文章で答えなければならないという意識を持つ生徒が多かったため、答え方を工夫して取り組ませた。解答には英文の正確さを求めず、ポイントとなる単語を抜き出せるなどの適切さを求め、そしてまた、実態に応じて日本語、英語どちらでも可とした。その結果、英問に対する抵抗感は薄れてきた。

(3) 本時の指導について

本時は**Reading for Communication** の1時間目に当たる。次時と併せて2時間で2ページにわたるビル・クラウリーさんの英語落語のあらすじや、大切な部分を読みとっていく。「まとまった内容を、限られた時間内で読む力」をつけることをねらいとし、そのため本時では、T.F、Q&Aを用いながら、概要と詳細を理解する力の養成に意を用いて指導する。そして次時では、小話の概要と詳細の理解の度合いを掘り下げ、不足している部分を補充しながら、より理解を深めさせたい。また、教科書45ページのSpeaking Plus 4を前時に行うことで、落語家ビル・クラウリーさんについて学び、落語に関する興味・関心を高め、理解の手助けとしたい。

3. 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

・落語に興味・関心を持ち、様々な言語活動に積極的に取り組むことができる。

(2) 表現の能力

・自分について話したり書いたり、落語について内容が表現されるように音読することができる。

(3) 理解の能力

・英語で話される小話などを、聞いたり読んだりしてその内容を理解できる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

・疑問詞+不定詞やIt ... for ~ to + 動詞の原形を含んだ英文の意味、用法、構造を身につけるとともに、文化による違いや言葉の使用法の違いなどを理解できる。

4. 単元の指導計画（全6時間）及び評価規準

(1) 単元の指導計画

- ・Starting Out 1時間
- ・Dialog 1時間
- ・Listening Plus 4 1時間
- ・Reading for Communication 2時間【本時1/2】
- ・Unit4 のまとめ 1時間

(2) 評価規準

時	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化
1	Starting Out 本文の内容理解と「疑問詞＋不定詞」の用法理解、運用	落語に興味を持って積極的に学習しようとする。		日本文化紹介の冊子に書かれている内容を理解することができる。	
1	Dialog 本文の内容理解と「It ... for ～ to + 動詞の原形」の用法理解、運用		「It ... for ～ to + 動詞の原形」を用いて自分のことで英文を書くことができる。		「It ... for ～ to + 動詞の原形」の意味、用法を身につけることができる。
1	Listening Plus 4 インタビューの聞き取りとR.F.Cの新出語句の理解	理解できないところがあっても、推測したりするなどして聞き続けている。		自然な口調で話されたり読まれたりした内容をメモをとって聞き取ることができる。	
1	Reading for Communication 本文のあらすじや大切な部分の内容理解		場面や心情に応じた適切な音読ができる。	限られた時間で、英語落語のあらすじや大切な部分を読みとることができる。	
1	Reading for Communication 本文の正確な内容理解とコミュニケーション活動		正しい強勢、イントネーション、区切りで正確に音読できる。	本文について正しく読み取ることができる。	
1	Unit4のまとめと復習 既習事項の運用と作文指導		文のつながりや構成を考え文章を書くことができる。		様々な既習事項を正確に使い分けることができる。

5. 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・限られた時間で、英語落語のあらすじや大切な部分を読みとることができる。(理解の能力)

(2) 本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点 ◇評価の方法
導入 10分	1 あいさつ 2 Listening Plus 4 の復習 3 学習課題の把握 《学習課題》	・元気にあいさつをする。 ・口頭でクラウリーさんについての Q&A を行う。 ①来日後何をしていたか。 ②落語で最も難しいことは何か。 ・教科書を見ないで教師の英語での小話を聞き、学習内容についての興味を持つ。	・時間をかけすぎないようにする。 ・英語で質問する。 ・英語落語に対する興味・関心を抱かせる。
	クラウリーさんの英語の落語で、話題にしていることはどんなことでしょうか。		
展開 30分	4 p42,43 の概要理解 5 語句の確認 6 本文の音読 7 本文の詳細理解	・教科書を見ないで本文の CD を 2 回聞き、小話の場面、登場人物をつかむ。 ・教科書を見て再度本文を 2 回聞き、答を確認する。 ・内容についての T.F を 4 問行う。 ・FC を使い既習語句の意味を確認、語の強勢に注意しながら発音の復習をする。 ・本文の音読練習をする。 ①CD を聞かせる。 ②教師/CD の後に続いて 2 回読む。 ③個人で 1 回読む。 ④全体で CD にあわせて 1 回読む。 ・本文内容についての Q&A を 4 問行い、英語か日本語で答える。	・聞いた内容について大切な部分を聞き取らせる。 ・まとまりのある文章を読んで、概要を理解させる。 ◇学習シートへの記入 ・3 問以上を目標とさせる。 ・確認程度とする。 ・適切な音量で読む。 ・ト書きとせりふを意識させ、場面や心情に応じた適切な音読をさせる。 ◇観察 ◇学習シートへの記入 ・2 問以上を目標とさせる。 ・適切な答であれば正解とする。
終結 10分	8 まとめ 8 次時予告とあいさつ	・3 分間で小話の大切な部分を読みとる。 ①テーマになっているのは日米のどんな違いなのか。 ②クラウリーさんの日本人の友達がした失敗とは何か。 ○英語であいさつをする。	◇学習シートへの記入 ・学習課題を振り返らせ、限られた時間で、大切な部分を読みとらせる。

(3) 評価

- ・限られた時間で、英語落語のあらすじや大切な部分を読みとることができたか。(理解の能力)

Unit4 R.F.C (p.42 ~ 43)②

組 名前

1

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()

2 次の問に日本語で答えましょう。

- ① 日本のレストランではどうやって注文しますか。

- ② なぜこの人はお腹がすいてしまうのですか。

- ③ クラウリーさんは友達をどこに連れて行きましたか。

- ④ なぜレストランのお客さんは彼を見たのですか。

3 この小話を読んで、おもしろいと思った文を1つ抜き出し、理由を書きましょう。

文

理由